

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 世田谷区立中里小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒154-0024

E-mail dai014@setagaya.ed.jp

Website http://www.setagaya.ed.jp/nato/index.htm

児童生徒数 男子 94 名 女子 71 名 合計 164 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☒ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（ 福祉 多文化理解 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

研究主題「人とのかかわりを大切にし、ともに伸びる児童の育成」

1 研究主題について

児童自身が自然や社会、様々な立場や考えをもつ人々と自ら進んでかかわる姿勢を育むことを目指している。そのためにはコミュニケーション力を向上させることでよりよい関わりができると考えた。そこで、昨年度までの「環境の学習」、「福祉の学習」、「多文化理解の学習」に、今年度は、「健康の学習」を加えて4つの柱とした。

児童にとって身近な題材から、人、社会、環境とかかわることで、コミュニケーションを図ることに必然をもたせることにした。これらの活動から、児童が互いの考えを伝え合い、知恵を出し合い、力を合わせ課題を解決することで、研究主題に迫れるのではないかと考えた。

2 持続可能な発展のための教育（ESD）の趣旨と身に付けさせたい資質能力 本校では、ESDの趣旨を次の3つと捉えている。

- ① 持続可能な社会を構築するための担い手を育む。
- ② 体系的な思考力、代替案の思考力、情報収集・分析力、コミュニケーション能力、持続可能な発展に関する価値観を身に付けさせる。
- ③ 人や自然、社会との「かかわり」や「つながり」を理解し、それらを尊重しながら協働で課題解決に取り組むことができる児童を育てる。

本年度は、「コミュニケーション能力」「持続可能な発展に関する価値観」を身に付けさせることを重点に取り組むことにした。そして、学習活動の中に、意図的にコミュニケーション能力を高める場面を取り入れた。

児童が身に付けてほしい「力」の重点

コミュニケーション能力

自分の考えを相手にしっかりと伝えたり、友達の意見や考えを聞いたりする力

持続可能な発展に関する価値観

「環境」「福祉」「多文化理解」「健康」に関して、これからの社会を守る視点での様々な価値観

3 中里小学校の持続可能な発展のための教育の実践

(1) 今年度の研究について

様々な人とのかかわりを大切にしながらコミュニケーションを図ることの楽しさを味わわせるため、それを図るための手段と対象を広げていきたいと考えている。

また、オリンピック・パラリンピック教育推進校として、児童がスポーツや運動を通して調和的な発達を遂げられるようにすること、また、国際

理解を深めて進んで平和な社会の実現に貢献できるような素地を養うことが重要であると考えた。そこで、運動・スポーツへの興味・関心を高め、日常的な運動による健康増進及び健康教育や食育による健康保持に向けた「健康の学習」を項目に追加することにした。

(2) 育てたい力

- ①いろいろな人に自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる力を育てる。
- ②人とかかわり合うことの心地よさや楽しさを味わわせ、互いに認め合おうとする意欲や態度を育てる。
- ③身近な外国語を通して、世界に視野を広げ関心をもたせる。

(3) 系統性をもたせた教育活動

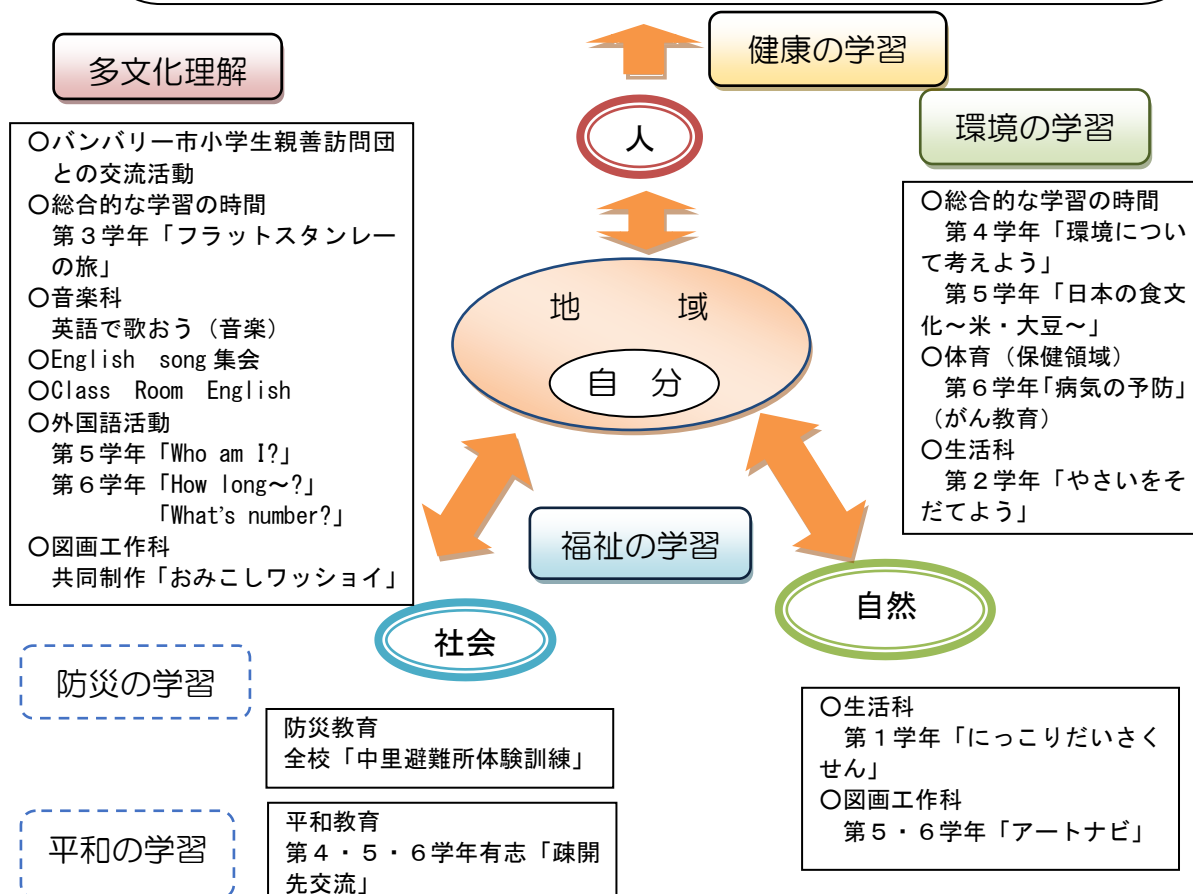
持続可能な発展のための教育は、発達段階に応じた系統性をもたせるとともに各学年の教育活動を横断的に実践することが重要である。そこで、各学年がESDカレンダーを再構築し、見通しをもった教育活動を行った。

ESDを通して育てたい能力・態度

持続可能な発展に関する価値観

コミュニケーション能力

- ①いろいろな人に自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる力を育てる。
- ②人とかかわり合うことの心地よさや楽しさを味わわせ、互いに認め合おうとする意欲や態度を育てる。
- ③身近な外国語を通して、世界に目を向け関心をもたせる。



4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

平成24年度にユネスコスクールに認定され、ESDの研究を推進してきた。研究主題である「人とのかかわりを大切にし、ともに伸びる児童の育成」に迫るためには、児童の身近な題材、地域のさまざまな人々とのかかわりを大切にしつつ、外国の言葉や文化、そこに住む人々とふれ合い、かかわり合うことが必要であると考え考え、1年間の取り組みを計画した。

(2) 授業実践紹介（一部抜粋）

学年別の学習テーマと「人とのかかわり」

学年 専科	様々な人とのかかわりを 大切にした実践	外国の言葉・文化・人と かかわる取り組み
1年	にっこり大作戦（高齢の方）	○クラスルームイングリッシュ （楽しめる英語のゲームの実施） ○イングリッシュソング （合唱を継続的な取り組み） ○バンバリー市小学生親善訪問団と の交流活動 （相撲や剣玉など、伝統文化の紹介、 歌やゲーム等での交流活動） ○メッセージ「フォニックス」 （文字と発音を伝えるメッセージ）
2年	サツマイモパーティー（1年生）	
3年	日本の伝統文化に親しもう（地域の人） フラットスタンレー（異国間交流）	
4年	環境について考えよう（地域の人） 福祉について考えよう（地域の保育園児）	
5年	日本の食文化～米・大豆～（異国間交流） 守れ！ぼくらの地球号（産業関係者）	
6年	伝承遊びを英語で伝えよう（異国間交流） はばたこう 未来へ（地域の人）	
音楽	英語で歌おう（異国間交流・地域交流）	
図工	「おみこしワッショイ」（異学年交流）	

軸となる教育課題と単元名・題材名

多文化理解の学習

- ・第2学年 生活科 わたしの町をたんけんしよう
- ・第2学年 生活科 電車に乗ってでかけよう
- ・第3学年 総合的な学習 どんな街に住みたいかな
- ・第3学年 総合的な学習 フラットスタンレーの旅
- ・第3学年 社会科 昔の人々の暮らし
- ・第4学年 総合的な学習 世田谷区の歴史・生物・生活
- ・第5学年 社会科 私たちの生活と漁業・農業
- ・第5学年 教科 日本語 日本の伝統文化にふれよう
- ・第6学年 国語科 お札にしたいあの人物
- ・第6学年 国語科 「なべ」の国 日本
- ・第6学年 総合的な学習 ふれあおう 日本の文化

福祉の学習

- ・第2学年 生活科 わたし大すき
- ・第4学年 総合的な学習 福祉を知ろう

環境の学習

- ・第5学年 総合的な学習 日本の食文化～米・大豆～

- ・第5学年 総合的な学習 守れ！ぼくらの地球号
- ・第5学年 家庭科 エコライフを工夫しよう
- ・第4・5・6学年 集団学童疎開先の訪問

食の学習

- ・第2学年 生活科 魚と仲良し
- ・第3学年 総合的な学習 ソデイカの観察体験
- ・第5学年 総合的な学習 カツオの一本釣り体験授業

防災の学習

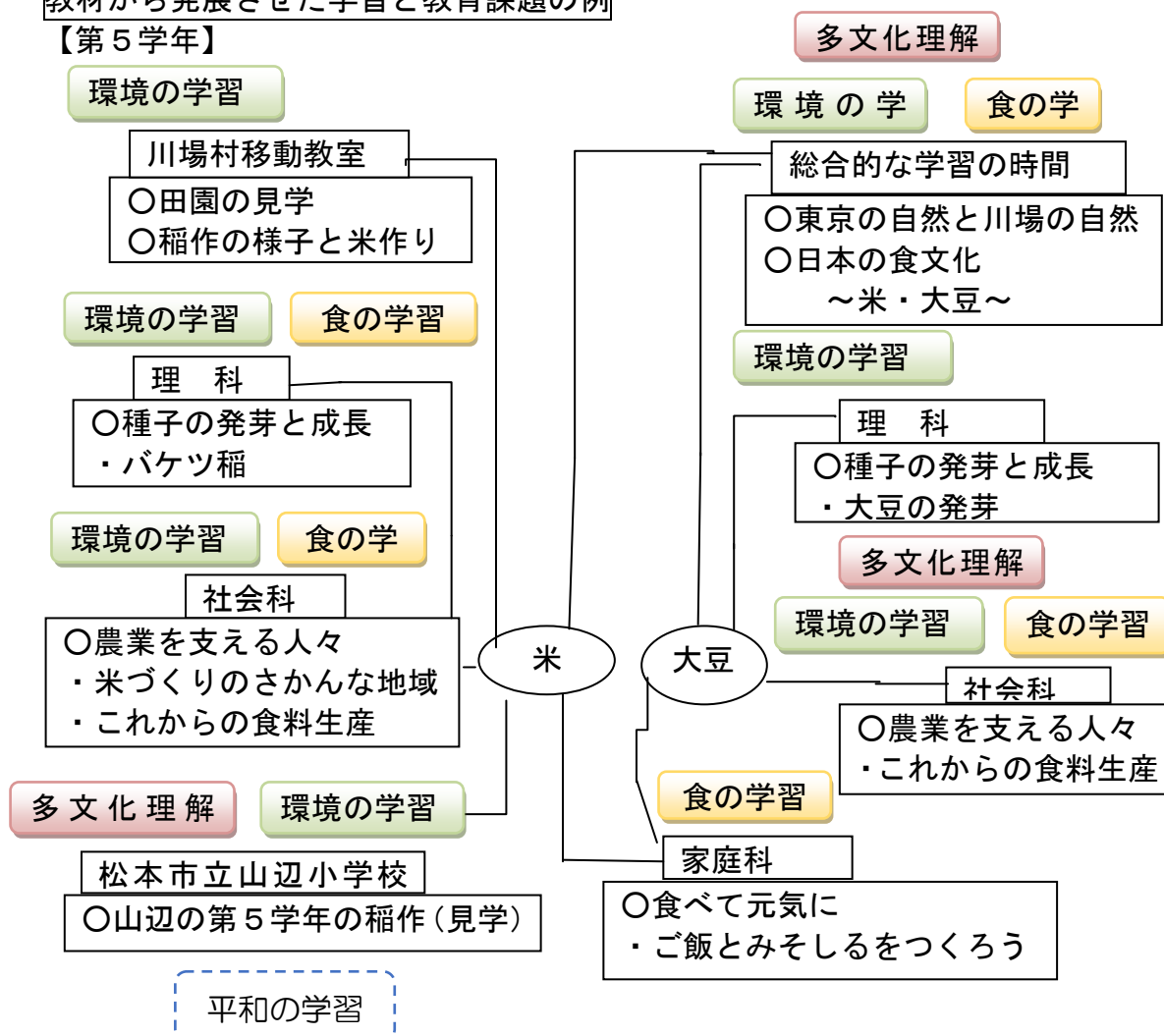
- ・全 校 避難所体験

平和の学習

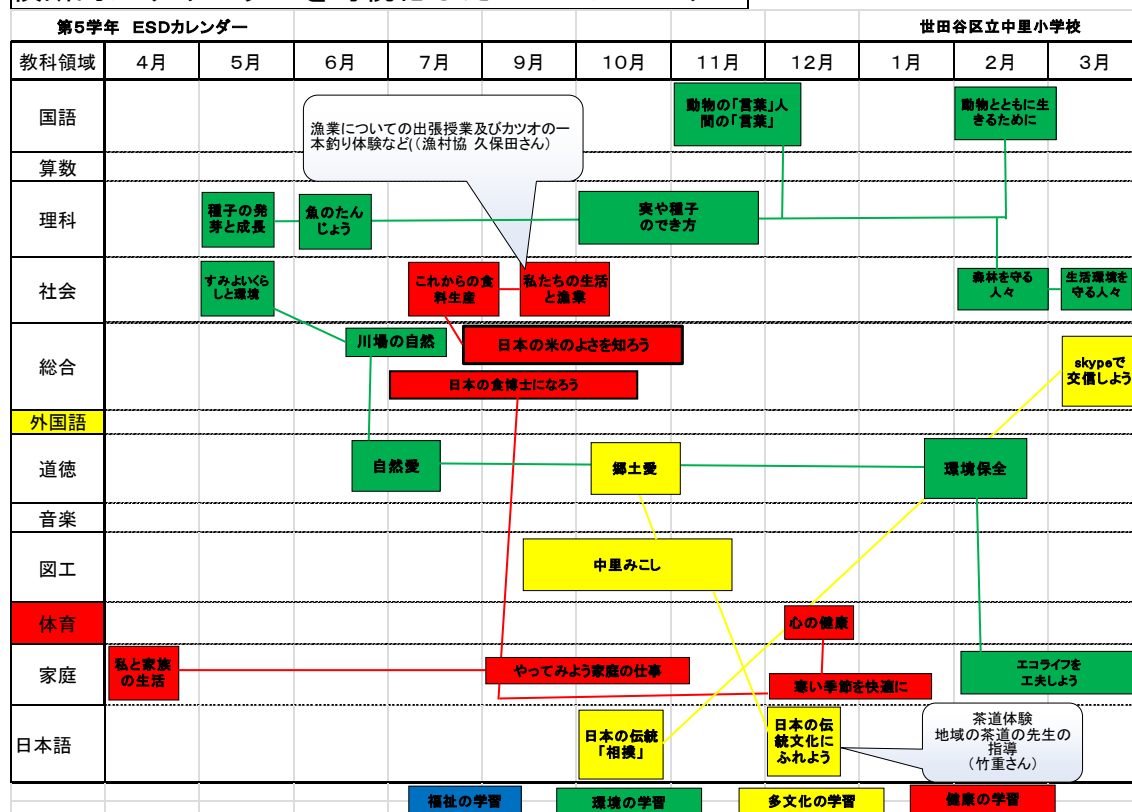
- ・第4・5・6学年有志 集団学童疎開先訪問
(疎開宿泊施設・姉妹校松本市立山辺小学校)

教材から発展させた学習と教育課題の例

【第5学年】



横断的カリキュラムを可視化したESDカレンダー



4 成果と課題

(1) 成果

- 昨年度に引き続き、世田谷区の姉妹都市オーストラリア国バンバリー市小学生訪問交流の実施ができた。これにより児童が意欲をもち、主体的英語を活用し、積極的にコミュニケーションを図る姿が見られた。また、発達段階に応じて日本文化を伝えるとともにバンバリー市の文化を理解するために追究する学習を実践することができた。
- ICT教材を活用することで、知的好奇心を掻き立てる授業を実践するための教材研究や授業構成に幅がで、学びを広げたり、深めたりすることができた。児童が生き生きと活動し、教育課題の取り組むことができた。また、ホワイトボードミーティング等の導入により、言語活動を充実することができた。
- 平成27年は戦後70年の節目となり、戦時中に本校の集団学童疎開を受け入れ先であった現在の姉妹校松本市立山辺小学校に第4学年以上の有志と疎開経験をした卒業生とともに疎開先の宿と学校訪問を実現することができた。史実から平和への理解を図るとともに、環境、生活習慣、文化等が異なる両校を互いに理解し合う有効な交流活動となった。
- 昨年度までの「環境の学習」、「福祉の学習」、「多文化理解の学習」に、今年度は、「健康の学習」を加えて4つの柱としたが、「人とのかかわり」をテーマに教育活動を展開することで、様々な教育課題と関連づけた課題解決型の教育実践の展開を実現することができた。また、取り扱う教材や題材を発展させて教科・領域及び教育課題につながりをもたせ、創造する学習が実現できた。

(2) 課題

- ユネスコスクールとして、グローバル人材を育成する教育活動を保護者、地域が期待を寄せている。今後も国際交流を継続していくためには、通信機器の活用について見識を広げる必要がある。
- 児童の発想を大切に創造する力を高めるためには、体験や協働を重点とし、題材や教材から学びの価値付けをし、展開をコーディネートすることが重要である。
- 単一の教育課題を取り上げるに留まらず、教師が型やパターンにはめ込まず、ねらいを達成するために柔軟なクロスカリキュラムを展開し、教育課題を拡大あるいは拡充しながら、教育活動を展開する力が求められる。
- ESDカレンダーは、毎年見直し再構築し、より精度の高い横断的カリキュラムを実現することが必要である。また、今年度の実践から取り扱う教材を発展させて教科・領域及び教育課題を結ぶことで、課題解決型の学習の創造と工夫が期待できる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（ ）